



# 常磐会報

第49号  
平成30年12月1日

発行所  
福岡県行橋市南大橋4-5-1  
京都高等学校常磐会  
印刷・デザイン  
(株)サラト



## 目次

ごあいさつ	2
平成30年度常磐会総会を終えて	3
進路概況	4
部活動活動状況	4
恩師からのおたより	5
定時制近況報告	5
卒業生からのおたより	6~7
「常磐会報発行協力金」協力者ご芳名	8

敬告  
貴造知  
校訓

## 2020年 常磐会名簿発行

2020年11月常磐会名簿を発行いたします。  
平成31年2月に調査カードが届きますのでご協力ください。





ごあいさつ

常磐会会長 若山直樹

(高校22回生)

会員の皆様には、ますますご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

今年も常磐会の季節がやってまいりました。常磐会会則第2条には、本会の目的が高らかに掲げられています。『本会は母校を中心として会員相互の連絡親睦を深め、併せて各自の知徳の向上を図り、母校の名誉の発揚に寄与することを目的とする』、一年に一度、同窓の皆で集い、旧交をあたため、親睦を深める大変有意義な機会です。多くの皆様の総会へのご出席を願っています。

常磐会は、大正6年に母校京都高校創立とほぼ同時に発足し、平成28年度に100周年を迎えました。本年3月入会の卒業生は高校70回生です。高女時代の30回を繋げれば母校創立以来100回目の卒業生となります。卒業会員総数も約30,500を数えるまでとなりました。常磐会は、その歴史と伝統を大切にしながら、その名の

通り『とこしえなる友情を育む、永久不変なもの』でありたいと願っています。会員の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、本年度常磐会総会の当番回生は、昭和61年卒業の高校38回生、定時25回生、平成11年卒業の高校51回生、平成23年卒業の高校63回生の皆様です。磯田実行委員長を中心として準備をして頂きました。実行委員の皆様のご苦勞にあらためて感謝申し上げます。また、本年度総会にあたり、ご協賛頂いた皆様、多大なご協力を賜り誠にありがとうございます。皆様のご厚意は本総会の運営、また現役高校生への教育活動の援助にと大切に使わせて頂きます。

最後になりますが、新たな100年に向けてさらにはばたく母校京都高校の未来と、あわせて常磐会のみならずの充実発展を願ひ、私のごあいさつと致します。



ごあいさつ

校長 木部勝志

常磐会会員の皆様には、日頃から母校のためにも多大な御支援と御協力を賜りまして、厚くお礼申し上げます。

私は、本年度定期の人事異動により、前校長田中浩子先生の後任として、福岡県教育センターより参りました。本校は、かつて教諭として十八年間にわたり勤務しました愛着のある学校ですから、教員生活最後の年に再び勤務することができて大変ありがたく、また身の引き締まる思いがいたしております。浅学非才の身ではありますが、本校発展のために精一杯努力する所存ですので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

御存知のように、本校全日制は平成二十七年から、文部科学省より「スーパーグローバルハイスクール(SGH)」として五年間の研究指定を受け、今年度で四年目になります。生徒は、「英知、創造、敬愛」の校訓の下、「将来のグローバル・リーダー」を目指して、本校の先生方だけでなく県内外各大学の先生方からも指導を受けながら、国内外の農業問題についてフィールドワークや海外研修などの探究活動を行っております。これまでの取組を通して、生徒は「自分にはできる」という自信を深めたようですし、学校生活全般への

意欲が高まり、希望進路の実現や部活動、学校行事等の充実に繋がっております。生徒諸君の今後の活躍を楽しみに、また頼もしく思っています。(進路・部活動の実績につきましては、本総会報の該当ページを御覧ください。)

また、本校定時制は夜間定時制高校の特色を生かしながら、多様な生徒を立派な社会人として送り出すべく、学力保障や課題解決能力の向上を目指して学校づくりを行っております。先生方の細やかな指導の結果、生活体験発表会や部活動で好成績を残すなど成果を上げており、近年、上級学校への進学者も増加してきております。仕事と勉学の両立に頑張る生徒に、どうか温かい御声援をお願いいたします。

本校は創立から百二年目(定時制は七十一目)になりますが、教職員一同これからも新興の心意気で本校の躍進を目指して尽力して参りますので、母校に対しまして、これまで同様の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びにあたり、常磐会の益々の御発展と、会員の皆様の御健勝を祈念しまして、御挨拶といたします。



# 平成30年度 常磐会総会を終えて

平成30年度常磐会総会実行委員長 磯田卓也

常磐会会員の皆様、2018年度常磐会実行委員長の高校38回生、磯田卓也です。

今年度実行委員である、高校38回生、高校51回生、高校63回生、定時25回生を代表してご挨拶申し上げます。

常磐会は、福岡県立京都高等学校、福岡県立京都高校の同窓会であり、会員相互の親睦・懇親を図ること、母校の発展に寄与することを目的として活動しています。

実行委員は毎年4世代の回生で組織され、9月には常磐会総会・親睦会が開催されており、9月には同時に記念イベントを開催しております。講演会、コナサート、落語など各当番回生の趣向を凝らした内容となっております。このような当番回生のご尽力と、先輩方の温かいご指導により常磐会の活動は継続され、次の世代へと引き継がれています。

さて今回の記念イベントは、中村文昭さんの講演会です。中村さんは伊勢にあるレストランのオーナーですが、現在に至るまでのお話が口コミで評判を呼び、

現在では年間300本以上の講演を依頼されている方です。私も何度が講演を聞きに行ったことがあります。が、ご自身の体験談の中に人生を生き抜いていく上での気づきがたくさんあり、とても元気を頂きます。是非皆様にも聞いて頂きたいと思い、今回お呼びした次第です。

今回の講演テーマは、「子ども達の、やる気を引き出す」です。ご自身の母親の子育てや、修行時代に師匠から学んだ子育てのやり方など、お話頂けるかと思えます。是非一人でも多くの方に講演会にご参加頂ければと思います。

昨年末より何もわからない状態の中でスタートした委員会でしたが、それぞれがアイデアや意見を出し合い、いろいろと悩みながらも徐々に形となっていきました。その過程の中で、在学中は交流がなかった同級生、51回生、63回生の後輩の方々と過ごした時間はとても楽しく、新たなご縁につながりました。これこそが、常磐会の魅力であると思えました。

実行委員会の皆様、その他ご協力頂いた皆様、本当

にありがとうございました。

そして今回の常磐会の運営にあたり、沢山の貴重な協賛広告ならびに寄付金を頂きました常磐会会員様、地域の皆様、本当にありがとうございました。

地域の皆様には可能な限り、協賛して頂いた企業様やお店をご利用して頂けると幸いです。

また今回の常磐会の運営にあたり、多くの助言やご協力を頂いた、前回実行委員をはじめとする諸先輩方、本当にお世話になりました。当初はかなり不安を抱えての船出でしたが、おかげさまで何とか責任を全うすることができました。この伝統を次の代に伝えていくことが我々の使命だと、気持ちを新たにしているところです。

最後に、常磐会会員および地域の皆様のみならずのご健勝とご多幸を祈念致しまして、挨拶とさせていただきます。



平成29年度 進路概況

進路指導主任 江江 聖吾

昨年度の大学入試の動向

昨年度の大学入試センター試験は、過去最も早い実施日の1月13日、14日に行われました。18歳人口は2万人減少したものの、志願者の増加により一昨年度より約7千人増の約58万人が受験しました。

私大における「経営費補助金」

不交付ルールが昨年度さらに厳格化されました。大学の規模に応じ定められた入学生定員超過率を超えた場合、経営費補助金が不交付となります。その超過率が、昨年度は厳しくなり、8千人以上の大学では、1.1倍を超えると補助金がカットされてしまいました。一般に私大では合格しても入学しない生徒が多いため、定員以上の合格を出しますが、この厳格化により、合格者数を大幅に抑えなければならなくなりました。そのため、昨年度は合格を絞った大学が多く、最終的に追加合格を出さざるを得

ない大学が多くありました。

大学入試における英語外部検定試験の利用が広がっています。国立大学で8%、私立大学17%が利用しています。出願要件・英語の試験免除・見なし満点・換算・加点など利用方法は様々ですが、CFER(セフアル)レベルで、B1レベル以上のスコア・資格を持っていれば、外部試験利用大学の8割以上はカバーできるようです。

本校の入試結果

昨年度は、本校におけるAO・推薦での受験者数は161名と過去最高の人数でした。SGH(スーパードグローバルハイスクール)の取組を通じて培った、話し合ったり、発表したりする力がつなごうとしたのだと思います。

最後になりましたが、常磐会におかれましては、日頃より本校教育にご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。今後とも、引き続きご支援いただきますようお願いいたします。

部活動活動状況

主な戦績 \*平成29年4月～30年1月までの期間での県大会以上

《体育部》

- 《バレーボール部》
○全九州ビーチバレージュニア選手権大会 女子九州大会出場
《バスケットボール部》
○福岡県高等学校バスケットボール選手権大会 男子県大会出場
《陸上部》
○福岡県高等学校陸上競技対校選手権大会 県大会出場9名
男子8種競技(3名)、男子走高跳(2名)
女子7種競技(2名)、女子3段跳(2名)
九州大会出場1名 男子8種競技(1名)
○福岡県陸上競技国体選考会 県大会出場2名
女子A走高跳(1名)、女子共通3段跳(1名)
○福岡県高等学校新人陸上競技対抗選手権大会 県大会出場6名
男子8種競技(1名)、男子やり投げ(1名)
女子1500m(1名)、女子800m(1名)
女子400m(1名)、女子7種競技(1名)
《野球部》
○第99回全国高等学校野球選手権福岡大会 県大会出場(ベスト16)
《剣道部》
○福岡県高等学校剣道選手権大会 男子団体県大会出場
《バドミントン部》
○福岡県高等学校バドミントン選手権大会 男子団体県大会出場(ベスト16)
《卓球部》
○国体選考会 女子シングルス(1名) 県大会出場
○福岡県高等学校新人卓球大会 男子シングルス(1名) 県大会出場
○高等学校選抜卓球大会 男子シングルス(1名) 県大会出場

《文化部》

- 《吹奏楽部》
○第62回北九州吹奏楽コンクール 高等学校の部Aパート 金賞 県大会出場
○福岡県アンサンブルコンテスト 打楽器五重奏 金賞 九州大会
《放送部》
○福岡県高等学校総合文化祭放送コンテスト 朗読部門(1名) 県大会出場
《写真部》
○福岡県高等学校総合文化祭写真部門 県入選(2名) 特選、入選
《囲碁・将棋部》
○第24回福岡県高文連将棋選手権大会 男子個人(1名) 全国大会出場

部員数

Table with columns: 部活動名, 男子, 女子, 計. Rows include バレーボール, バスケットボール, 野球, テニス, 陸上, 柔道, 剣道, サッカー, バドミントン, etc.

平成29年度 国立大学合格者数(既卒生を含む)

Table with columns: 国立, 大学, 学部, 人数. Lists universities like 埼玉, 神戸, 京都, etc. and their respective departments and student counts.

平成29年度 私立大学合格者数

Table with columns: 大学, 人数. Lists private universities like 福岡工業大学, 福岡大学, etc. and their student counts.

上級学校合格状況・就職状況

Table with columns: 平成29年度, 現役, 既卒, 合計. Shows statistics for university admissions and employment.



### 恩師からの おたより 1

「現在 過去 未来」

亀田陽一先生

今年度も常磐会総会が盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

三十八回生の皆さんお疲れ様です。また、ありがとうございます。卒業してから三十有余年、それぞれ自分の世界をつくり、今日という日を迎えていることと思います。当番回生としての活動に積極的に参加されている皆さんは、充実した現在を生き、過去をブラスに評価し、未来に明るい展望を待てる人達といえるのではないのでしょうか。熱き思いで俱に一つのことを成し遂げるにより、さらに自信を深めることができると思います。残念ながら今回は縁のなかつた人達も機会があれば、関わりを持っていただくことを願っています。新たな出会いにより見える風景が変わってくるものです。

皆さんにとつての京都高校は永遠に母校であり続けます。同窓生として未永く京都高校とその生徒達を暖かく見守っていたきたいと思います。

皆さんの高校生活は、入学式、そして翌日からの英彦山での体験学習と、異例のスタートをしました。和田学年は従来の京都高校の指導体制に新たな要素を加え、さらに生徒が意欲を持つて学べる環境づくりを進めました。変えることのリスクを背負いながらの日々でしたので、前進あるのみ。まさに、「若者に過去はない」という意気込みで、皆さんの有意義な高校生活の実現・進路保障のために力を注いできたと思います。個人的には、初めて三年間通して担任をさせてもらった学年です。そのため気負いもあり、何かと迷惑をおかけしたことと思いますが、周囲の先生方や生徒の皆さんに助けられながら、語りつくせないほど濃密な思い出の詰まった三年間となりました。

その後、三十年の月日が流れ、退職後は、二単位制通信制高校に関わりました。次いで、地元図書館に三年間お世話になり、現在は自宅前の菜園で野菜づくりの真似事などをしていきます。自然に生かされていることを感じることも多いのですが、小人にはなかなか煩惱を取り去ることができません。残された時間をいかに心穏やかに過ごすかが今後の課題となっています。

結びになりましたが、皆様ののご多幸と京都高校の益々のご発展をお祈り申し上げ、筆を擱きたいと思ひます。

### 恩師からの おたより 2

近況報告

38回生 3年6組担任 棚田規生先生

平成30年度常磐会総会開催を心よりお祝い申し上げます。当番回生の38期生の勇姿を拜見するのを楽しみにしております。

君達が卒業したのは昭和61年でした。あれから32年の歳月が経過したわけですね。18歳で卒業、それぞれの違った人生を歩んでこられました。しかし、顔を合わせれば瞬時に高校時代が蘇ってきます。それが同級生の嬉しい時間となるはずですよ。

私では、私の近況報告を致します。私は平成20年3月北九州高校を最後に39年間の教職を退きました。そして行橋市歴史資料館から声がかかり学芸員として勤務しました。もともと歴史にも興味があり、資料館には地域のお宝がたくさん集積されているため、時の経つのを忘れることがどれだけあったことか。特に書幅類をはじめ江戸時代の大庄屋日記、豪商の什器類や数多くの書翰が収蔵庫の棚に並んでいます。その大半が毛筆で書かれています。私は書が専門とは言え、古文書類はこれまであまり目にしたことがありませんでしたが、一つひとつ開いていくうちにそれぞれの筆者の書き癖がわかり、少しずつ読めるようになっていきました。これが資料館勤務の最大の成果でした。

また、資料館では多くの市民の方が訪ねて来られます。その方々と窓口でお話しするのも楽しいひとときとなりました。また、年に数回特別展や企画展があり、その展示に係わる色んな作業も楽しくできました。特にキャプション作りが上手になりました。6年があつという間に過ぎていきました。そして、資料館にはボランティアガイドの会があり、各地から行橋を訪ねて来られるお客様を案内します。この方々とも仲良く交流をしており、資料館退職後もこの会に合流させてもらい、今も時折りガイドを行っております。しかし、私のガイドはレベルの低いダジャレガイドで通しています。

行橋には各地に多くの興味あるスポットがありますが、ガイドしてほしいことがありましたら遠慮なく資料館（コスモイト2F）に連絡して下さい。また、私事ですすが11月9日〜12日（資料館の隣室）に書の個展を予定していますので興味がある方はご覧いただければ幸いです。

最後になりましたが、京都高校の益々の発展と常磐会の皆様のご健勝とご多幸を祈念して筆を擱きます。

### 恩師からの おたより 3

38回生の思い出と  
近況報告

38回生 3年7組担任 衛藤由美先生

常磐会総会の開催、誠にありがとうございます。教師として

六年目、二校目の学校として赴任したのが京都高校でした。赴任と同時に一年生の担任になり、皆さんと三年間を共にすることとなりました。

この学年は、和田英樹学年主任の強いリーダーシップのもと、何事にも全力で取り組む学年だったと思います。勉強に部活動、模試に検定にと頑張っていました。色々な場面が浮かびますが、体育大会の京都体操。皆さんが心を一つにして頑張っていた姿を思い出します。九重キャンプでは雨の中のキャンプファイヤー、スキー教室の修学旅行等懐かし思い出されます。私は被服科の担任をさせていただきました。明るく元気な女子クラスで、三年間クラス替えがないので繋がりが強く、楽しい三年間を送らせてもらいました。私の誕生日には、朝ホームルームに行くのと黒板におめでとうのメッセージが書いてあり、毎年忘れずにいてくれたこと、皆さんの優しい気持ちの本音が嬉しかったことを覚えておきます。

卒業して三十年以上が経ちますが、クラス会で元気な姿を見てくれ、退職した時はお祝いをしてくれたことを嬉しく思います。現在私は退職と同時に実家の大分に帰り、母を介護しながらのんびりとした生活を送っています。母は足が弱くなり、骨折を繰り返した結果、現在移動は車いすです。九十歳過ぎての骨折でも、寝たきりにはなりたくないと目標を持ち、毎日リハビリに励んでいました。時間の制約はありますが、元気がなった母と楽しく過ごしています。

また地元に戻ったと同時に、ボランティアガイドの会に入会し、街づくり推進協議会のメンバーにもなりました。地区には歴史的建築物を現存しており、見学に訪れる人もいます。ガイドを希望する方や地元の小学生在に町並みを案内し、歴史文化を紹介しています。現在は母の介護があり、あまり参加できていませんが、地域活性化のためにも活動を続けていきたいと思います。

最後になりましたが、皆さまのご活躍と京都高校発展を祈念いたします。

### 定時制 近況報告

まず、平成二十九年度の生徒の進路状況をご紹介いたします。二十九年度は、四年修了生が十六名、三年修了生が三名、計十九名の生徒が卒業しました。在学中からの仕事を継続している生徒もいますが、新規就職者が八名、進学者が四名でした。

次に、平成二十九年度の特色ある行事・活動をご紹介します。九月に行われた生活体験発表北九州地区大会に四年生一名、二年生一名が出場しました。今までの経験を発表し、優秀賞・努力賞を受賞し、一名は、地区代表として県大会に出場しました。

十月には、定時制課程創立七十周年記念式典が行われました。定時制卒業生の講演会や全校生徒の氏名印を使って記念作品を完成させました。式典当日には、普段校歌を歌う機会が少ない生徒たちですが、練習を重ね大きな声で校歌斉唱を行いました。

文化部関係では、四月に行われた北九州芸術祭（書道部門）において、三年生四名が特選、八名が入選となりました。また、行橋市人権週間啓発作品（書道の部）では、二年生一名が最優秀賞、四年生二名、二年生一名が入選となりました。高文連書道部門授業作品展においても四年生一名、二年生三名が入選しました。

体育部関係では、高体連定通部北ブロック卓球大会に二年生男子が会場、県大会に出場しました。また秋季大会にも二年生男子が会場、県大会に出場しました。六月には定時制通信制高校陸上競技大会の三千メートル障害に四年生男子が会場しました。

本年度は、新入生十六名を迎え、全校七十四名の生徒数でスタートしました。生徒たちは、仕事に勉学に全力で励んでいます。

卒業生からの  
おたより 1



京都高校を卒業して  
思うこと

高校38回生 山路 浩三郎



このたび38回生として寄稿させていただきました。機会に恵まれ、大変光栄に感じております。

卒業して32年が経ちますが、今回久しぶりに卒業アルバムを開きました。夏のキャンプや運動会、文化祭などの写真をみて懐かしさや同時に、くだらないことや子供じみたことをやっていたことも思い出少し恥ずかしさも覚えました。あの頃は課外授業が多く、もともと自由な青春時代を過ごしたい、そう思って他校の生徒を羨ましく感じたりしていたように思います。準備をされる先生方は生徒よりも大変であることを当時はまだ分かっていませんでした。そんな怠け者の自分も、ご指導のおかげで何とか大分医科大学（現在の大分大学医学部）に進学することができました。

大学に入学してみると医学部のカリキュラムは思っていたよりもタイトであることに驚かされました。3学期制で学期末ごとに試験があり、基礎医学、臨床科目いずれも1科目でも落とすと留年してしまいます。6年生の後半にある卒業試験では20科目以上ある臨床系科目すべてをクリアしなければ卒業できません。試験期間も1カ月以上あります。そしてそのあとは国家試験が待っています。自分は部活のラグビーを一つづつながら、かろうじて留年せず卒業し国家試験にも合格できましたが、これも高校で鍛えら

れた経験が役に立ったのだと思います。

医者になり九州大学の内科系医局に入局しました。2年間の研修医生活を終え、上司にいわれるがまま大学院に進んだ自分でしたが、最初はあまり興味がなかった研究に段々と面白さを感じ、いつしか研究者として生きていきたいと思ふようになりました。そして博士号を取得し、しかもなく、30歳で希望していたアメリカに留学しました。しかし3年近く過ごした留学先では十分な成果がなく残念なことで帰国。その後大学に戻り、臨床医の傍ら再度研究に取り組み、37歳でまたもや市中中の病院に意向を命ぜられました。さすがに大学にはもう戻れないだろうと感じ、しばらく悩んだ末に40歳で大学医局を辞め、福岡市内のある内科診療所で雇われ院長として働くことにしました。まだどこか吹っ切れずに仕事をしていてそんなとき、高校時代の同級生から同窓会の誘いを受けました。行ってみると、そこにはかつて見た顔ぶれがありました。昔の思い出話をしつつ近況を聞くにつれ、皆それぞれに悩みを抱えながら人生を歩んでいるのだと、当たり前のことですが実感し気が楽になりました。10年以上会っていないのに、そういう話ができる友人がいることを本当に有難く感じました。

現在、私は独立し博多で内科診療所を開業しています。今年の9月で丸6年。いわゆる町医者として働いていますが、地域住民の方々の健康管理を行うことにやりがいと誇りを感じています。今の自分があり、また前向きに生きていられるのは、高校時代に厳しくも熱心に指導していただいた経験、そしてそこで知り合った友人たちがどこか心の支えになっていたので、そんな気がします。京都高校で得たそれらを、これからも大切にしたいと思っています。

最後に、常磐会の幹事の皆様に感謝いたしますとともに、京都高校の益々の発展と、同窓生の皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。

卒業生からの  
おたより 2



「人生一〇〇年時代に  
向けて」

高校38回生 8組 佐藤 広美



今年3月で私もとうとう五十歳になりました。『人生一〇〇年時代』と言われていた昨今では折り返し地点まで来たことになりました。

しかし、振り返るとあつという間だったなと思えます。京都高校を卒業して三十二年にもなるなんて、一気に走り抜けた気がします。

高校卒業後、私は太宰府にある短大に進学しました。元々、お菓子作りや料理が好きだったこともあり、食物栄養科を選択し栄養士資格を取得しました。しかし、短大卒業後は栄養士資格を活かすことなく、某信販会社に一般担当職として入社。栄養士資格は、結婚した時、旦那様の為に活かしたら良いかなと安易に思っていました。

【走り抜けた二十代】各部署の仕事を感じるのに必死だった時代です。あの頃は残業も多く、土日でもシフトで出勤していました。あの頃に『働き方改革』という制度があれば……。

【加速した三十代】仕事のノウハウも把握していた三十代に入って福岡から離れることになりました。一般担当職から、全国転勤を伴う総合職に転換。その後、店長として重責を担うことにもなりました。色々な部署や地域に異動したので、引越が大変でした。

【更に加速し、人生を考え込んだ四十代】仕事ばかりに必死になっていて、気が付けば四十

歳を過ぎていました。「あれっ、私このままで良いの？」四国の松山に赴任していた頃に湧き出た疑問です。意を決して一年間限定で、松山から福岡へ婚活通い。でも、考えるのが遅かったかな？残念ながらご縁はありませんでした。そこから更に、自分の将来について考えるようになり、自分な時期、ある外資系企業からスカウトを受け、悩み抜いて入社を決意しました。

今では、前職約二十二年・現職約八年での金融知識・経験を活かして、マネージャーの講師も時々させて頂いております。プライベートでは、女子会等の企画をしたり、人と人の縁繋ぎをしたり。私が少しでも誰かの役に立つことが出来たら……との思いで活動しております。

周りの方からは、バリバリのキャリアウーマンだねと言われることも多いですが、高校時代は人前に立つなんて考えられませんでした。どちらかという内気な方で早くお嫁さんになりたかった。人生って、どうなるかわからないですね。

【振り返ると懐かしい高校時代】勝てなかったテニスの試合、眠かった朝練に合宿での肝試し。部室でのおしゃべりやタロット占い。楽しかった♪ そろばんや簿記などの検定試験は大変だったけど、今に活かされています。そして、淡く切ない片思いもありました。（青春してたなあ）

【そして、これからの五十年】やっぱり、これからはワークライフバランス。青春とまではいけなくとも、自分がワクワクすることを増やしていきたいと思えます。仕事も遣り甲斐あるけど、毎日が日曜日になった時、空っぽにならないように。一緒に楽しむ仲間を増やして、貯蓄も殖やして。そして、長く楽しむ為の健康な体も作りながら。



卒業生からの  
おたより 3



# 「吾輩は京都生だった 理由はもうある！」

高校51回生 1組 村上 剛史



私事ですが、男の子二人の父になりました。長男は小学五年生で、超がつくほど真面目な子。でも「ふとんがふつとんだ」「ネコがねころんだ」「レベルの駄じゃれで大爆笑したりもする、ひょうきんな所もある素直な子。

そうそう、釣りをするのが大好きで、アジが大量入れ食いだった時のこと。「このアジは南蛮漬けしような」「それどんな味?」「え?どんな味って、アジだけに?」「ギャハハハ、お父さん、まじでおもしろい!」こんな、たわいないやりとりが、いつまでも続けられるといいな。

次男は小学二年生。兄とは真逆の性格で、芸人のネタをモノマネしたりする、ひょうきんで心優しい子。ただ、便秘気味。いざ用を足すときはうめき声をあげ、大きなブツを出す、もはや出産なみ。

そうそう、私が頭痛でしゃがみ込んでいた時のこと。私の顔を覗き込みながら「お父さん大丈夫?!大きいウ○チがでそうなの?」「ティッシュ持ってこようか?」って。いや、今は頭痛な...。でもいつまでもその優しい気持ち、忘れないでいてほしい。

そんなある日のこと。長男に「なんでお父さんはお父さんの高校に行ったの?」と訊かれたことがある。

と後から付いてくるものなのだ。高校で勉強を頑張ったおかげで、大学に行って、自分で塾を開いて、何百人もの生徒にありがとって言ってもらえて、毎日大好きな仕事ができる。そしてお前たち二人の親になれて、こうして幸せな生活を送られている。お父さんにとって京都高校に行った理由は、今のこのお父さんの生活にたどり着くためだったと、大人になってやっとわかったよ。」

「それに、部活入って今でも付き合ひのある大切な仲間とも出会えたり、泣いて抱き合うほどの喜びと感動も経験した。京都高校入った理由なんてものは、ほとんど後付けだな」「ふん」と、子ども達は納得したのかどうなのか。いずれにしても、彼らも人生の中で大きな選択や決断を迫られる時は必ず来る。そしてその選択や決断の理由が後から必ず付いてくる。だからこそ、その後付けする理由が素晴らしいものになるように、溢れんばかりになるように、これからは精一杯生きてほしいと切に願うし、今はまだ自分も寄り添い力になりたいと、そんな風に思っている。

最後に、現役京都生へ。毎日が充実している子は、それでよし。その調子で頑張りなさい。もし反対に、勉強がちょっと苦しく感じる子、進路に悩んでいる子、生き甲斐が見つけられない子、そんな子がいるのなら、一度、胸張って叫んでみてはどうだろうか。

「吾輩は京都生である。理由はまだない!」  
キラリと、格好よくね。  
皆さんのご健闘をお祈りしております。



卒業生からの  
おたより 4



# 「ちよつとダサイ!? 誇るべき京都生」

高校51回生 8組 今井 さち (旧姓 濱田)

早いもので、京都高校を卒業してからももうすぐ20年が経とうとしています。在学中は、真面目な生徒とは言えなかった私ですが、このたび、ご縁があつてお声がけいただき、こうして寄稿文を書かせていただいています。

20年も前のことですが、当時の思い出は今でも鮮明に記憶の中にあります。信じられないぐらい重い鞆を背負って登下校していたこと、眠気と戦いながら大量の宿題をこなしていたこと、毎日部活に明け暮れていたこと、月に一度行われる服装検査をパスするのに必死だったこと、ダサイ防寒着、ダサイサブバッグ、しかも私たちの学年は一番ダサイと言われる緑色!... 今となつては、その全てが愛おしい。

卒業してからはずっと遠方で過ごしている私ですが、周りの人に当時の京都の校則や授業時間などを話すと、必ず「ウケ」ます。それと同時に、そのことを誇らしく話している自分に気が付くのです。当時は辛くて仕方なかったことも、いつの間にか「ちよつと自慢したいこと」に変換されています。

昨年、里帰り出産のために帰省し、数ヶ月間を地元で過ごしました。お盆やお正月には帰省しているものの、数ヶ月の間、地元には滞在したのは約20年振りでした。地元を離れて日々仕事に忙殺されているとつい忘れていましたが、やはり私の原点はここにあるのだと再確認できました。そして、その大部分を占めているのが、多感な時期を過ごした京都高校での日々です。宿題や部活や厳しい校則など、窮屈な中にももちろん楽しいことがたくさんあり、むしろ窮屈だったからこそ同級生や先輩、後輩とそれを分かち合いながら日々を過ごしていたように思います。生まれてきた娘に自慢したい、そんな学校が京都高校です。何かの巡り合わせでもしも15年後に地元で暮らすことになれば、娘には京都高校を薦めようと思っています。ちよつとダサイけど、最高だよ!と:(笑)

里帰り中、街で京都生を見かけることも多く、懐かしさと甘酸っぱさの入り混じった気持ちで眺めていました。見ず知らずの、いくつもの年の離れた後輩たちですが、誇るべき「京都生」です。そして、相変わらず重そうな鞆を持って、少し傾いた肩に密かにエールを送りました。



